

集落営農組織の次代を担うオペレーターの育成支援

■ 梶谷営農集団・井ノ口営農組合 ■

(西讃農業改良普及センター 高八 弘 岩井正直 ○吉田一史)

●対象の概要

西讃管内の集落営農組織は、令和4年3月現在37組織あり、そのうち任意組織が33組織、法人組織が4組織、市別では観音寺市が16組織、三豊市が21組織となっている。(表-1)

表-1 令和3年度の市別集落営農組織数

市	集落営農		
	組織数	うち任意組織数	うち法人数
観音寺市	16	14	2
三豊市	21	19	2
計	37	33	4

このうち、梶谷営農集団は水稻、レタス、ナシなどを栽培している観音寺市豊浜町和田地区において、ナシと作業が競合する稲作の効率化・省力化を図るため、平成12年6月に設立され、農業機械の共同利用や田植えと稲刈りの作業受託に取り組んでいる。現在の構成員は、24名で平均年齢は67歳であるが、70歳以上が12名と半数を占めている。

また、井ノ口営農組合は、昭和63年12月に三豊市豊中町比地大地区における水稻の受託作業を行う組織として設立され、現在の構成員が12名で、平均年齢は76歳となっており、オペレーターは1名である。

●課題を取り上げた理由

両集落営農組織とも、オペレーターが高齢化、固定化してきており、今後も安定して営農を継続していくためには、次代を担うオペレーターを複数名確保する必要があると考えられた。

また、両組織でも将来の営農に不安を感じ、新たに親族関係者の参入を模索していたことから、普及センターでは、県単独事業の「みんなで守る地域農業支援事業(リクルート活動支援)」を活用し、令和3年度に後継者の育成支援に取り組むこととした。

取り組むにあたり、後継者には、単に機械操作ができるだけでなく、基礎的な栽培知識を習得したうえで、作物やほ場の状態に合わせた機械操作と、品質の向上や収益性の改善にも取り組める人材が求められることから、両組織と取組内容について検討を重ね、研修会などの支援を行うこととなった。

●普及活動の経過

両組織では、5月の役員会で新たに参入してもらいたい若手をリスト化するとともに、研修内容を検討し計画を立てた。この計画は稲作がメインであるため、田植えの研修から開始し、下記の内容について随時開催した。(表-2)

表-2 オペレーター研修の概要

項目	内容
①開催時期の設定	候補者に会社員がいるため、土・日曜日を軸に日程を調整
②機械操作	農機具販売店に依頼し、組織のオペレーターの栽培に合わせた調整や清掃について講習
③操作機械	田植機及びコンバイン
④栽培研修	機械操作と合わせた水稻の栽培管理講習

この研修の中で普及センターは、栽培管理講習を担当し、梶谷営農集団では穂肥診断や収穫適期、水管理について、井ノ口営農組合では、収穫適期や水管理、収穫後には次年度計画の検討に対する支援を実施した。



候補者の選定(井ノ口営農組合)

●普及活動の成果

1 後継者候補の選定・加入

梶谷営農集団は34歳～41歳までの候補者が4名、井ノ口営農組合では55歳～61歳までの候補者3名が、将来を担う後継者として選定された。

構成員への加入は、下記の選定者の研修を通じて推進して、梶谷営農集団は1名、井ノ口営農組合は2名の加入となった。他の選定した候補者は、田植や収穫作業に引き続き参加し、親世代からの後継者として準備していくこととした。

2 各種研修会と参加状況（表-3）

田植機、コンバインの操作研修会では、農機具販売店のスタッフから、基本的な機械の点検・整備、操作及び清掃について講習があり、現役オペレーターから、田植機では、植付本数、株間、施肥量、フロート等の調整箇所に加えて、品種や苗質、ほ地の条件にあわせて適切な調整が必要であることや、コンバインの操作では、刈取りスピード、旋回方法、刈取高さの操作について説明を受けた後、実際に機械の操作を体験した。

また、普及センターは、各研修会を通して、品種に合わせた栽培管理のポイントや、追肥時期、施肥量の診断方法、収穫適期の判定等の講習を行った。

各研修会ともに、候補者と一緒に構成員も多数参加し研修を受けることで、集団内の交流が深まり、今後の営農活動に意欲的な姿勢が見られた。

参加した候補者からは、「機械の操縦は初めてで、扱いそのものが分からなかった。取説だけでなく簡単な操作手順があったらいい。」との意見もあり、役員からも次年度に向けての課題として、より充実した活動を計画している。

表-3 研修会等実施状況

区分	梶谷営農集団		井ノ口営農組合	
	月日	人数	月日	人数
田植機操作研修	6/4, 5	4名	6/19	3名
水稻栽培基礎講習	7/16	4名	—	
コンバイン操作研修	9/5	4名	10/1, 16	3名
水稻栽培検討会	—		12/5	3名



田植機の操作研修（井ノ口営農組合）



水稻の穂肥診断方法の研修会（梶谷営農集団）



コンバインの操作研修（梶谷営農集団）

●今後の普及活動の課題

集落営農組織は、地域を支える担い手として、重要な役割を担っており、後継者の確保・育成は営農活動を継続するうえで大きな課題のひとつとなっている。また、農業機械も大型化・高性能化が進み、適切な操作が必要となるほか、経験だけでなく、理論に基づく栽培管理が収益の向上につながることから、今後とも、関係機関と連携して、こうした状況に対応できる後継者の育成に継続的に取り組む必要がある。